

日本青年会議所会頭に内定 全国拠点と連携し社会課題に取り組む

ジェイリース

全国で約3万人の会員を有する公益財団法人日本青年会議所(以下、JCC・東京都千代田区)の

2022年度の会頭に、家賃債務保証を手がけるジェイリース(大分市)の中島土副社長が内定した。任期は22年1月1日から1年間となる。

JCCは全国各地で運営される青年会議所の総合調整機関として1951年に設立。2019年からは「SDGsを最も推進する団体となる」との行動目標を掲げ、全国691の青年会議所と連携して、子育てをしやすい社会づくりを推進していくことを活動の一つに据えている。

中島副社長は、会頭就任後に取り組みたいものとして「行き過ぎた株主資本主義の是正」を上げる。株主、従業員や地域社会などすべてのステークホルダーに満足してもらえる仕組みをつくり、自社の事業拡大と社会課

題の解決を両輪で進めていきたいと考えている。不動産分野においては、19年にリノベーションによる地域の価値向上を狙った取り組みにも参画した。今後は全国の青年会議所がまちのビジョンをつくり、その中の重要施策の一つとして、所有者不明の土地や空き家などの不動産活用を視野に入れる。地域に新しい価値を生み出し、社会課題の解決を追求していく考えだ。

ジェイリースは、JCCに在籍していたおよそ50人のメンバーによって17年前に設立された経緯もある。中島副社長は「当

時、家を借りたくても保証人の不在で借りられない無縁社会という社会課題があった。JCCは社会課題を解決する団体であ

る。今後もJCCとビジネスの双方を通じて社会課題の解決に取り組んでいきたい」と抱負を語った。